

中谷伸生 教授略歴

- 1949年 高知県須崎市に生まれ大阪で育つ
- 1981年 関西大学大学院文学研究科哲学専攻博士課程後期課程所定単位取得後退学
- 1981年 三重県立美術館建設準備室臨時職員
- 1982年 三重県立美術館学芸員
- 1984年 国立西洋美術館（東京）に内地留学
- 1985年 三重県立美術館学芸課長
- 1992年 関西大学文学部哲学科美学美術史専修助教授
- 1997年 関西大学文学部哲学科美学美術史専修教授（大学院は1994年より文学研究科担当）
- 1999年 関西大学在外研究員としてイギリス大英博物館に留学。受け入れ研究者はティモシー・クラーク学芸員（1999年10月1日～2000年3月31日）
- 2004年 博士（文学・関西大学）、学位論文「日本近世近代絵画と大坂画壇の再評価」
- 2011年 関西大学在外（調査）研究員としてベルギー・カトリック・ルーヴェン大学に留学。受け入れ研究者はウィリー・F・ヴァンドゥワラ教授（2011年7月20日～9月20日）
- 2014年 博士（文化交渉学）、学位論文「日本近世近代美術を中心とする美術交渉論」
- 2015年 関西大学文学部アジア文化専修へ移籍（大学院は2011年より東アジア文化研究科担当）
- 2017年 関西大学文学部定年退職
- 2017年 関西大学文学部特別契約教授、関西大学名誉教授
- 2020年 関西大学文学部特別契約教授定年退職
- 専攻 日本近世近代美術史、日中欧比較美術史、文化交渉学

【非常勤講師歴】

- 三重大学 教育学部 美術史及び美学担当（1983年4月1日～1985年3月31日）
- 皇学館大学 文学部 美術史担当（1985年4月1日～1987年3月31日）
- 関西大学 文学部 芸術学担当、美学美術史特殊問題担当（1987年4月1日～1992年3月31日）
- 大阪大学 全学共通教育機構 芸術学担当（1996年4月1日～1997年3月31日）
- 京都大学 文学部・大学院文学研究科 芸術学美術史担当（2005年4月1日～2007年3月31日）
- 同志社大学 大学院文学研究科 芸術史特講Ⅰ担当（2012年4月1日～2013年9月31日）
- 廈門大学（中国）外文学院日本語学科 日本文化史担当（2019年夏季集中講義）

【学内役職・所属学会・社会的活動等】

- 美術史学会会員（この期間に断続的に常任委員・委嘱委員・幹事を歴任）
（1979年5月～2012年4月）
- 美学会会員（この期間に断続的に常任委員・幹事を歴任）
（1979年10月～2011年9月）

大阪市立近代美術館建設準備室 評価委員

(1997年～2019年まで断続的に就任)

大阪国立国際美術館専門委員

(2000年～現在まで断続的に就任)

美術フォーラム21刊行会 理事兼編集委員

(2001年12月1日～現在)

三重県立美術館専門委員

(2002年～現在)

大阪歴史博物館資料評価委員

(2003年度)

関西大学文学研究科長代理

(2003年10月～2005年9月30日)

吹田市文化振興基本条例専門検討委員会委員

(2004年11月～2010年10月)

関西大学文学研究科長

(2005年10月1日～2006年9月30日)

関西大学文学部副学部長

(2006年10月1日～2008年9月30日)

村越英明氏より「口八丁」の号を授けられる。以後「口八丁法蓮齋」の号を用いる。

(2007年4月頃)

京都国立博物館有形文化財評価委員

(2008年3月21日)

日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員

(2009年11月～2019年10月)

吹田市文化財保護審議会委員

(2009年11月～2011年10月)

関西大学文学部総合計画会議委員

(2011年10月1日～2015年9月30日)

日本学術振興会科学研究費委員会専門委員

(2012年12月～2013年11月30日)

関西大学東西学術研究所所長

(2013年4月1日～2015年9月30日)

南島史学会会長

(2015年5月～2017年5月)

一般財団法人きょうと視覚文化振興財団理事

(2019年11月～現在)

中谷伸生 教授 研究業績一覧

【著書（単著）】

- 01 『ルドン・聖ヨハネ黙示録』、形象社、1984年3月、総50頁。
- 02 『大坂画壇の絵画—文人画・戯画から長崎派・写生画へ—』、関西大学図書館、2006年10月15日、総75頁。
- 03 『大坂画壇はなぜ忘れられたのか—岡倉天心から東アジア美術史の構想へ—』、醍醐書房、2010年3月31日、総616頁。
- 04 『耳鳥齋アーカイヴズ—江戸時代における大坂の戯画—』、関西大学出版部、2015年3月、総209頁。
- 05 『日本の近世近代絵画と文化交渉』、関西大学出版部、2018年3月、総292頁。
- 06 『シャルトル大聖堂—秋山博愛撮影写真追懐—』、関西大学出版部、2019年3月、総237頁。

【編著・監修】

- 01 『関西大学所蔵・大坂画壇目録』（中谷伸生・山岡泰造編）、編著、関西大学図書館、1997年3月31日、総177頁。
- 02 『笑いの奇才 耳鳥齋—近世大坂の戯画』、監修、伊丹市立美術館、2008年3月31日、総115頁。
- 03 『東アジアの文人世界と野呂介石—中国、台湾・韓国、日本とポーランドからの考察—』、編著、関西大学出版部、2009年3月、総252頁。
- 04 『東アジアの言語・文化・芸術』（中谷伸生・内田慶市編著）、編著、丸善出版、2011年11月31日、総396頁。
- 05 『日本と台湾の日本学—美術・思想・歴史—』（中谷伸生・徐興慶編著）、編著、尚昂文化事業国際有限公司、2016年1月、総314頁。
- 06 『山本竟山の書と学問—湖南・兩山・鉄斎・南岳との文人交流ネットワーク』（中谷伸生・陶徳民編）、編著、ユニウス、関西大学東西学術研究所、2019年6月、総398頁。
- 07 『風景論—東アジアから見る・読む・考える—』、編著、関西大学出版部、2020年3月31日、総335頁。

【共著・共同執筆】

- 01 『日本美術全集・22（洋画と日本画）』、中谷伸生・高階秀爾・陰里鉄郎・トーマス・ライマー・北澤憲昭他計21名、共同執筆、講談社、1992年4月4日、204-205頁。
- 02 “The Mythology of Vincent van Gogh (Ed. by T.Kodera)”、(園府寺司編)・中谷伸生・アルトマン・バヴェルヴィアラ・木下長宏・滝沢修他計18名、共同執筆、1993年、77-89頁。
- 03 『絵画の探偵術』、(岸文和・島本浣編) 中谷伸生・加須谷誠・並木誠士、山田俊幸他計12名、共同執筆、昭和堂、1995年3月20日、114-117頁。
- 04 『絵画のメディア学—アトリエからのメッセージ』（岸文和・島本浣編）、中谷伸生・蜷川順子・並木誠士、実方葉子他計12名、共同執筆、昭和堂、1998年5月30日、46-51頁。

- 05 『森芳雄追悼文集』（森芳雄追悼文集刊行会編）中谷伸生・陰里鉄郎・中山真一・匠秀夫・前田敬子他計35名、共同執筆、森芳雄追悼文集刊行会、2003年11月10日、130-132頁。
- 06 『色彩の魔力』（浜本隆志・伊藤誠宏編）、中谷伸生・柏木治・森貴史、共同執筆、明石書店、2005年4月15日、145-178頁。
- 07 『東亜文化交流与經典詮釈』、中谷伸生・甘懷真・曹景恵・奥村佳代子・徐興慶他計19名、共同執筆、台大出版中心、2008年、31-48頁。
- 08 『都市の風土学』（木岡伸夫編）、中谷伸生・中澤務・高橋誠一・千代章一郎他計15名、共同執筆、ミネルヴァ書房、2009年2月、281-301頁。
- 09 『亜洲語言文化交流研究』、共同執筆、上海辞書出版社、2009年3月、総178頁。
- 10 『東アジア文化交流經典詮釋』、中谷伸生・黄俊傑・松浦章・藤田高夫・吾妻重二他計18名、共同執筆、関西大学出版部、2009年3月、278-289頁。
- 11 『東アジアにおける文化情報の発信と受容』（松浦章編）、中谷伸生、藤田高夫、沈国威、奥村佳代子他計21名、共同執筆、雄松堂出版、2010年2月、419-438頁。
- 12 『人物往来与東亜交流』（王勇編）、中谷伸生・薄培林・叶国良・桑野梓他計25名、共同執筆、光明日報出版社、2010年5月、108-121頁。
- 13 『東亜文化的伝承与止揚』（王勇編）、中谷伸生・藤田高夫・王瑞来・井上亘他計30名、共同執筆、中国書籍出版社、2011年7月、229-241頁。
- 14 『顔をみること』（蜷川順子他編）、中谷伸生・鼓みどり・バーバラ・バート・溝井裕一、共同執筆、関西大学出版部、2012年2月28日、161-182頁。
- 15 『東亜坐標中的跨国人物研究』（王勇編）、中谷伸生・鹿毛敏夫・松浦章・陳小法他計21名、共同執筆、中国書籍文庫、2013年1月、103-116、175-184頁。
- 16 『泊園書院と大正蘭亭会百周年』（藪田貫、陶徳民編）、中谷伸生他、共同執筆、関西大学出版部、2015年3月、285-292頁。
- 17 『文化交渉学のパースペクティブーICIS 国際シンポジウム論文集一』（吾妻重二編）、中谷伸生他、共同執筆、関西大学出版部、2016年8月、193-216頁。
- 18 『近世近代日中文化交渉の諸相』（井上克人編）、中谷伸生、松浦章、藤田高夫、日並彩乃他計8名、共同執筆、ユニウス、関西大学東西学術研究所、2017年3月15日。
- 19 『泊園書院と漢学・大阪・近代日本の水脈』（吾妻重二編）、中谷伸生、山寺美紀子、横山俊一郎、町泉寿郎他計8名、共同執筆、関西大学出版部、2017年8月、中117-156頁。
- 20 『東西学術研究と文化交渉ー石濱純太郎没後50年記念国際シンポジウム論文集』（吾妻重二編）、中谷伸生、高田時雄、池尻陽子他計17名、共同執筆、関西大学出版部、2019年、333-356頁。
- 21 『東アジア圏における文化交渉の軌跡と展望』（井上克人編）、中谷伸生、藤田高夫、松浦章、豊田郁他計10名、共同執筆、ユニウス、関西大学東西学術研究所、2020年2月、195-220頁。

【学術論文】

- 01 「シャルトル大聖堂西正面に関する一考察」、『千里山文学論集』第22号、関西大学文学研究科院生協議会、1979年11月5日、35-54頁。
- 02 「シャルトル大聖堂における〈建築家B〉の構想」、『美學』、美学会第124号、査読有り、1981年3月、48-66頁。
- 03 「大正八年における村上華岳」、『三重県立美術館研究論集』創刊号、三重県立美術館、1983年3月31日、31-63頁。
- 04 「関根正二と河野通勢の邂逅」、『関根正二とその時代』、三重県立美術館編、1986年9月6日、156-159頁。
- 05 「足代義郎論—「生」の人形と鮮烈な色彩を求めて」、『足代義郎展』、三重県立美術館、1987年3月、77-83頁。
- 06 「ドガの作品に見られる日本的造形」、『ドガ』、東京新聞、1988年10月27日、241-245頁。
- 07 「関根正二の絵画における「宗教的な気分」について」、『哲学』第13号、関西大学哲学会、査読有り、1988年10月10日、55-87頁。
- 08 「近代日本画の下絵の研究—宇田萩邨を手がかりに」、『鹿島美術財団年報』第7号、鹿島美術財団、1990年3月、58-63頁。
- 09 「森芳雄—人間像による重奏」、『森芳雄展』、三重県立美術館、1990年12月。
- 10 「一人の日本人が見たスペイン現代美術」、『スペイン20世紀の美術』、三重県立美術館、1991年3月10日、52-55頁。
- 11 「キュビズムへの抵抗—1917年18年の萬鐵五郎」、『三重県立美術館研究論集』第3号、三重県立美術館、1991年3月31日、56-90頁。
- 12 「18世紀フランス復刻版画の位置づけ」、『ロシア宮廷美術展』、三重県立美術館、1992年3月、111-114頁。
- 13 「シャガールの主題とモチーフの源泉及びその展開」、『シャガール展』、東京新聞、1992年10月21日、21-29頁。
- 14 「日本近代洋画におけるファン・ゴッホの影響」、『ファン・ゴッホ神話』、テレビ朝日出版、1992年4月11日。
- 15 「三重県立美術館所蔵・宇田萩邨の『南島写生』」、『関大考古学等研究室紀要』第9号、関西大学考古学研究室、1993年3月31日、30-50頁。
- 16 「大正期における日本画の下絵—宇田萩邨の天下絵を中心に—」、『関西大学文学論集』第43巻4号、関西大学文学部、1994年3月31日、1-33頁。
- 17 「近世近代の大坂（阪）画壇の特質と評価」、『おおさか文藝書画展』、1994年。
- 18 「1912年の日本近代洋画に見るファン・ゴッホの影響」、『関西大学文学論集』第44巻文学部創設七十周年記念特輯号、関西大学文学部、1995年、285-318頁。
- 19 「渡辺崋山『佐藤一斎像』正本と画稿」、『関西大学文学論集』第44巻4号、関西大学文学部、1995年、49-64頁。

- 20 「鍋木清方の評価をめぐって一大正期の実験模索から昭和へ」、『関西大学文学論集』45巻4号、関西大学文学部、1996年3月31日、1-26頁。
- 21 「聖澤院書院の障壁画―狩野栄川院典信及び富岡鐵齋の壁貼付絵と襖絵―」、『関西大学博物館紀要』2号、関西大学博物館、1996年3月31日、66-112頁。
- 22 「春光院書院の障壁画―土方稻嶺の壁貼付絵と襖絵《武陵桃源図》」、『関西大学博物館紀要』第3号、関西大学博物館、1997年3月31日、111-156頁。
- 23 「兼葭堂と近世大坂の文人画家たち」、『大坂の書と絵と本』、関西大学図書館、1997年5月、56-57頁。
- 24 「春光院客殿の障壁画・狩野永岳の壁貼付絵と襖絵」、『関西大学博物館紀要』第3号、関西大学博物館、1997年、99-110頁。
- 25 「中井藍江「《楨桧群鹿図屏風》」及び《飲中八仙図》」、『関西大学文学論集』第47巻第4号、関西大学文学部、1998年3月、23-44頁。
- 26 「大正の絵画に見る東洋と西洋―村上華岳の日本画と萬鉄五郎の洋画」、『泊園』第37号、泊園記念会、1998年9月30日、4-49頁。
- 27 「金台寺客殿の障壁画・狩野永岳の壁貼付絵と襖絵」、『関西大学博物館紀要』第4号、関西大学博物館、1998年、40-45頁。
- 28 「伝常信・常梅（カ）・常元・常俊及び永岳の障壁画」、『関西大学博物館紀要』第5号、関西大学博物館、1999年3月、121-128頁。
- 29 「ルーシー＝スミス美術批評と日本あるいはスペイン」、『関西大学文学論集』第48巻第4号、関西大学文学部、1999年3月3日、1-24頁。
- 30 「狩野永岳はなぜ無視されたのか・幕末京狩野の盛衰」、『美術フォーラム21』創刊号、醍醐書房、1999年11月、31-35頁。
- 31 「大岡春トと大坂画壇の成立」、『江戸時代における大坂画壇の研究』科研費・基盤研究（B）（代表：山岡泰造）、2000年3月、51-72頁。
- 32 「大心院の伝鶴沢探鯨の襖絵残欠」、『関西大学博物館紀要』第6号、関西大学博物館、2001年3月、81-87頁。
- 33 「永井重良による寛文・元禄の頂相をめぐって」、『神応寺文化財調査報告書』、八幡市教育委員会、2001年3月31日、38-48頁。
- 34 「大雄院方丈の障壁画「柴田是真の襖絵《郭子儀図》」」、『関西大学博物館紀要』第7号、関西大学博物館、2001年3月31日、53-60頁。
- 35 「上田耕夫、呉春・蕪村を慕った大坂の四条派」、『関西大学東西学術研究所創立五十周年記念論文集』、東西学術研究所、2001年10月31日、261-273頁。
- 36 「森芳雄「《ある知らせ》」」、関西大学『哲学』第21号、関西大学哲学会、査読有り、2002年3月20日、287-301頁。
- 37 「妙心寺養源院の障壁画―花井常棟の襖絵及び壁貼付絵残欠」、『関西大学博物館紀要』第8号、関西大学博物館、2002年3月31日、70-82頁。

- 38 「耳鳥斎、ある忘れられた戯画作者」、『美術フォーラム21』第6巻、醍醐書房、2002年6月30日、91-97頁。
- 39 「大坂の絵画・兼葭堂とその周辺」、『日本思想史学』34号、日本思想史学会、査読有り、2002年9月30日、7-15頁。
- 40 「点描の東西—大雅・スーラなど—」、『日本とヨーロッパの点表現』、静岡県立美術館、2003年2月18日、10-14頁。
- 41 「耳鳥斎《別世界巻》」、『東西学術研究所紀要』第36輯、東西学術研究所、2003年3月31日、23-47頁。
- 42 「浮田一蕙《長篠合戦図》—建仁寺久昌院客殿障壁画」、『関西大学博物館紀要』第9号、関西大学博物館、2003年3月31日、136-146頁。
- 43 「〈忠魂〉の絵師と《長篠合戦図》」、『美術フォーラム21』第8号、醍醐書房、2003年6月27日、87-93頁。
- 44 「伝狩野永岳筆《文王呂尚図》」、『哲学』第24号、関西大学哲学会、査読有り、2004年3月19日、101-120頁。
- 45 「インド美術と岡倉天心—アジア主義の美術批評家—」、『古代インドの都市像を探る』、古代インドの都市像を探る実行委員会、2004年11月20日、77-82頁。
- 46 「建築と美術—岡倉天心と日本の文化—」、『電気設備学会誌』、256号、査読有り、2005年1月10日、54-60頁。
- 47 「ボッシュとの出会い—瀧・梅岡真理子の〈日本的なもの〉」、『美術フォーラム21』第11号、美術フォーラム21刊行会、査読有り、2005年2月25日、18-23頁。
- 48 「再考・妙心寺聖澤院書院障壁画—狩野典信筆《山水・麒麟図》及び《竹林七賢図》—」、『関西大学博物館紀要』第12号、関西大学博物館、2005年3月、94-132頁。
- 49 「大口金谷編『爾雅积草図』（関西大学図書館蔵）—東アジアの本草学・博物学の潮流—」、『美術フォーラム21』第12号、美術フォーラム21刊行会、査読有り、2005年5月9日、4-10頁。
- 50 「美術史学とは何か—日本近世近代絵画と大坂画壇の再評価をめぐって—」、『哲学』、第25号、関西大学哲学会、査読有り、2005年5月10日、13-34頁。
- 51 「大坂画壇と清代の中国絵画—沈南蘋による長崎派絵画の伝播を中心に—」、『社会転型与多元文化』、2005年6月26日、341-344頁。
- 52 「岡倉天心が評価したもの・しなかったもの—江戸狩野と大坂の文人画—」、『美術フォーラム21』第13号、美術フォーラム21刊行会、査読有り、2006年、61-68頁。
- 53 「大坂画壇と清代の中国絵画—沈南蘋と葛蛇玉を中心に—」、『アジア文化交流研究』第1号、関西大学アジア文化交流研究センター、2006年3月31日、145-154頁。
- 54 「東アジアの本草学と博物学の美術史的考察（上）—大口金谷編『爾雅积草図』（関西大学図書館蔵）について—」、『東西学術研究所紀要』第39輯、東西学術研究所、2006年4月1日、1-47頁。
- 55 「一九三〇年代の日本画と台湾の画家陳進—植民地支配のイデオロギーと美術—」、『南島史学』第70号、南島史学会、査読有り、2007年、1-16頁。

- 56 「菅原布寿史—東アジアの源泉から蘇る現代の意匠—」、『美術フォーラム21』16号、美術フォーラム21刊行会、査読有り、2007年、18-25頁。
- 57 「菅橋彦、奥谷秋石、阪正臣、山本行範による合作《きつねよめいりの巻》」、『伏見稲荷大社「朱」』第50号、2007年2月17日、61-73頁。
- 58 「大阪の文人画家・矢野橋村—「青飛白走帖」と東アジアの文人趣味—」、『関西大学博物館紀要』第13号、2007年3月31日。
- 59 「大坂の絵画と長崎、そして中国—大坂画壇の再評価から東アジア美術史の構想へ—」、『アジア文化交流研究』第2号、関西大学アジア文化交流研究センター、2007年3月31日、53-72頁。
- 60 「江戸から運ばれた《唐獅子図》—狩野常信の工房による妙心寺退蔵院障壁画残欠」、『美術フォーラム21』15号、美術フォーラム21刊行会、査読有り、2007年5月8日、104-107頁。
- 61 「大坂画壇の絵画」、『関西大学図書館フォーラム』、第12号、2007年6月。
- 62 「大阪の絵画と東アジア」、『視覚都市大阪の美術』特別号、近代大阪美術研究会、2007年11月24日、13-26頁。
- 63 「富岡鐵齋筆《巖栖谷飲図》考—妙心寺聖澤院障壁画—」、『アジア文化交流研究』第3号、関西大学アジア文化交流研究センター、2008年3月31日、319-338頁。
- 64 「大坂画壇と沈南類—葛蛇玉《山高水長図》に見られる形式化—」、科研費・基盤研究(A)(代表・松浦章)、2008年3月、94-101頁。
- 65 「文人画とは何か—岡田半江《山水図巻(大川納涼図)》をめぐって」、『美術フォーラム21』第14号、美術フォーラム21刊行会、査読有り、2008年5月、44-49頁。
- 66 「江戸と京をつなぐ江戸狩野—周信、古信、洞玉、為恭—」、『美術フォーラム21』第17号、美術フォーラム21刊行会、査読有り、2008年11月、6-9頁。
- 67 「日本の美術館活動と美術作品の評価—1945年以後の現代美術をめぐって—」、『海洋文化国際学術研究会論文集』、2008年11月、831-844頁。
- 68 「狩野永泰筆《富山帯雲之図・海岩逆浪之図》(建仁寺久昌院蔵)」、『関西大学博物館紀要』第15号、関西大学博物館、2009年3月、235-247頁。
- 69 「絵画としてやってきた中国の禅僧たち—永井重良による江戸時代の頂相をめぐって」、『アジア文化交流研究』第4号、関西大学アジア文化交流研究センター、2009年3月31日。
- 70 「浮田一蕙《長篠合戦図》—建仁寺久昌院客殿障壁画—」、『京都奥平家菩提寺久昌院の長篠合戦障壁画』、設楽原歴史資料館、2009年10月、13-35頁。
- 71 「初期是真の傑作《郭子儀図》(大雄院障壁画)」、『別冊太陽(柴田是真)』、平凡社、2009年12月、92-119頁。
- 72 「日本近世近代絵画史研究の方法と東アジア」、『アジア文化交流研究』第5号、関西大学アジア文化交流研究センター、2010年2月31日、449-460頁。
- 73 「浜田杏堂《掌中延寿》」、『関西大学博物館紀要』第16号、関西大学博物館、2011年3月31日、68-77頁。
- 74 「大坂画壇の定義とその問題点」、『関西大学文学論集』第60巻第4号、関西大学文学部、2011年3月

- 31日、1-19頁。
- 75 「大坂の南蘋派—森蘭齋の《西王母図》と《桃と薔薇と白頭翁図》」、『美術フォーラム21』第23号、美術フォーラム21刊行会、査読有り、2011年5月30日、4-9頁。
 - 76 「大坂画壇から東アジア美術史の構想へ」、『東アジアの言語・文化・芸術』、関西大学文学部、2011年9月30日、315-344頁。
 - 77 「近世絵画史における浜田杏堂—大坂文人画の評価をめぐって—」、『東西学術研究所創立六十周年記念論文集』、関西大学東西学術研究所、2011年10月11日、105-124頁。
 - 78 「京の狩野派と袁派」、『東アジア文化交渉研究』開設記念号、関西大学東アジア文化研究科、2012年3月31日、35-50頁。
 - 79 「伝狩野永岳《楼閣山水図》」、『関西大学博物館紀要』第18号、関西大学博物館、2012年3月31日、79-90頁。
 - 80 「近代挿絵画家の特質とその分類」、『文化遺産としての大衆的イメージ』、科研費・基盤研究（B）（代表者：金田千秋）、2012年3月31日、299-304頁。
 - 81 「近世近代の日本絵画における美術交渉」、『東西学術研究所紀要』第45輯、東西学術研究所、査読有り、2012年3月31日、1-20頁。
 - 82 「宇田荻邨における西洋志向と日本回帰—大正・昭和の写生帖をめぐって—」、『関西大学文学論集』第62巻3号、関西大学文学部、2012年12月15日、37-55頁。
 - 83 「耳鳥齋の戯画と東アジアの美術交渉」、『東アジア文化交渉研究』第2号、関西大学東アジア文化研究科、2013年3月31日、27-41頁。
 - 84 「扇面画の美術交渉—日本・中国からフランスへ—」、『東西学術研究所紀要』第46輯、東西学術研究所、査読有り、2013年4月1日、51-71頁。
 - 85 「捻じれ歪んだ日本の文人画研究—大雅・蕪村から竹田・半江へ—」、『美術フォーラム21』第28号、美術フォーラム21刊行会、査読有り、2013年11月30日、95-103頁。
 - 86 「文化交渉学としての美術史学—大坂画壇から東アジア美術史の構想へ—」、『関西大学東西学術研究所研究報告書』、2013年12月31日、1-19頁。
 - 87 「菅橋彦の魅力とその評価—マンガ・アニメーションと東アジアの文化的伝統—」、『菅橋彦展—浪速の粹 雅人のこころ—』、鳥取県立博物館、2014年2月22日、1-5頁。
 - 88 「浦上春琴による文化五年の《蘭亭図》」、『関西大学博物館紀要』第20号、関西大学博物館、2014年3月31日、54-79頁。
 - 89 「蘭亭曲水図—狩野山雪から浦上春琴へ—」、『東アジア文化交渉研究』第7号、関西大学東アジア文化研究科、査読有り、2014年3月31日、37-51頁。
 - 90 「岡倉天心による近世絵画の評価—大坂画壇に言及して—」、『LOTUS』第34号、日本フェノロサ学会、査読有り、2014年3月31日、17-33頁。
 - 91 「美術交渉としての日本美術史研究と東アジア」、『東西学術研究所紀要』第47輯、東西学術研究所、査読有り、2014年4月、1~13頁。
 - 92 「陳進と一九三〇年前後における日本画（膠彩画）」、『南島史学』第82号、南島史学会、査読有り、

2014年12月25日、37-48頁。

- 93 「日本近代洋画と文化交渉学—鹿子木、萬、前田とサロン・ド・メ」、『東アジア文化交渉研究』第8号、関西大学東アジア文化研究科、査読有り、2015年3月31日。
- 94 「《世態聯画》(画卷)の位置づけと『畫本古鳥図賀比』(版本)—耳鳥齋の肉筆画と版本をめぐる問題点—」、『関西大学博物館紀要』第21号、2015年3月31日、24-57頁。
- 95 「耳鳥齋の版本における作風展開」、『東西学術研究所紀要』第48輯、東西学術研究所、査読有り、2015年4月1日、1-29頁。
- 96 「耳鳥齋アーカイヴズ—新資料十件をめぐって—」、『アジア文化交流研究センター・ディスカッションペーパー』巻11、関西大学CSAC、2015年8月31日、3-27頁。
- 97 「文化交渉から見る日本と台湾の膠彩画(日本画)」、『南島史学』第83号、南島史学会、査読有り、2015年11月30日、1-14頁。
- 98 「東アジア美術交渉論の構想—グローバリズムに即した方法論と日本美術史研究」、『美術フォーラム21』第32号、美術フォーラム21刊行会、査読有り、2015年11月30日、110-119頁。
- 99 「淀川図巻と平家物語絵巻のデジタル化—美術館・博物館の状況を含めての考察—」、『関西大学博物館紀要』第22号、関西大学博物館、2016年3月31日、12-27頁。
- 100 「林閨苑研究—大坂画壇の奇矯の絵師—」、『東アジア文化交渉研究』第9号、関西大学東アジア文化研究科、査読有り、2016年3月31日、17-35頁。
- 101 「木村兼葭堂の絵画を貫くもの」、『東西学術研究所紀要』第49輯、東西学術研究所、査読有り、2016年4月1日、7-37頁。
- 102 「宇田荻邨における南島への憧れ—不在としての沖縄—」、『南島史学』第84号、南島史学会、査読有り、2016年11月30日、15-25頁。
- 103 「駒井哲郎とルドンの『黒』」、『東アジア文化交渉研究』第10号、関西大学東アジア文化研究科、査読有り、2017年3月31日。
- 104 「妙心寺塔頭客殿(方丈)と書院の障壁画構成」、『関西大学文学論集』第66巻、関西大学文学部、2017年3月31日、1-23頁。
- 105 「木村兼葭堂の周辺から次世代の画家たちへ」、『関西大学博物館紀要』第23号、関西大学博物館、2017年3月31日、24-54頁。
- 106 「文化交渉学としての日本美術史学」、『東西学術研究所紀要』第50輯、東西学術研究所、査読有り、2017年4月1日、3-18頁。
- 107 「台湾イメージの選択と陳進の膠彩画(日本画)」、『南島史学』第85号、南島史学会、査読有り、2017年11月1-12頁。
- 108 「見え隠れする大津絵の諷刺的諧謔—戯画、写生画、文人画」、『美術フォーラム21』第36号、美術フォーラム刊行会、査読有り、2017年11月、79-84頁。
- 109 「大坂画壇の特質とその再評価—木村兼葭堂、岡倉天心から東アジアへ—」、『泉屋博古館紀要』第33巻、泉屋博古館、2017年11月、1-13頁。
- 110 「耳鳥齋による戯画の源泉」、『関西大学文学論集』第67巻、関西大学文学部、2017年12月、61-79頁。

- 111 「文化交渉学としての日本美術史学の方法」、『小田淑子先生退職記念論文集』、小田淑子先生退職記念論文集刊行委員会、2018年2月、119-134頁。
- 112 「呉昌碩と富岡鉄齋—東アジアの近代文人画」、『東アジア文化交渉研究』第11号、関西大学東アジア文化研究科、査読有り、2018年3月、165-180頁。
- 113 「中西家（吹田市岸部）旧蔵の作品群—絵画を中心に工芸など—」、『東西学術研究所紀要』第51輯、東西学術研究所、査読有り、2018年4月1日、3-14頁。
- 114 「陳進と膠彩画（日本画）の文化交渉」、『南島史学』第86号、南島史学会、査読有り、2018年11月30日、1-14頁。
- 115 「大坂画壇における四条派」、『大阪商業大学商業史博物館紀要』第19号、2018年12月10日、5-20頁。
- 116 「大坂の四条派画家たちの特質」、『関西大学博物館紀要』第25号、関西大学博物館、2019年3月31日、100-124頁。
- 117 「長澤蘆雪と大坂画壇」、『東アジア文化交渉研究』第12号、関西大学東アジア文化研究科、査読有り、2019年3月31日、3-21頁。
- 118 「長澤蘆雪—流派を越えて—」、『東西学術研究所紀要』第52輯、東西学術研究所、査読有り、2019年4月1日、3-14頁。
- 119 「坂本泰漣—透過する素材の向かうところ」、『美術フォーラム21』第39号、美術フォーラム21刊行会、査読有り、2019年6月10日、12-19頁。
- 120 「日本美術史学の現在を問う」、『井上克人教授退職記念論文集』、同論文集刊行委員会、2020年3月31日。
- 121 「木村兼葎堂はなぜ笑っているのか—研究をめぐる疑問と課題と仮説—」、『東アジア文化交渉研究』第13号、関西大学東アジア文化研究科、査読有り、2020年3月31日。

【資料紹介・美術批評】

- 01 「岩橋教章《鴨の静物》」、『ひる・ういんど』創刊号、三重県立美術館ニュース、1982年8月。
- 02 「シャルダン〈ゴドフロワの肖像〉他13編作品解説」、『サンパウロ美術館』展カタログ（富山県立近代美術館）、1982年9月。
- 03 「現代美術基礎用語解説」、『現代美術の新世代展』（三重県立美術館）、1983年7月。
- 04 「現代美術の新世代—遠藤利克・竹田康宏—」、『ひる・ういんど』第4号、三重県立美術館ニュース、1983年9月。
- 05 「リチャード・ハミルトン及びエデュアルド・パオロツィ作品解説」、『ロンドン・ニューヨーク』、（富山県立近代美術館）、1983年9月。
- 06 「中村不折《裸婦立像》」、『ひる・ういんど』創刊号、三重県立美術館ニュース第5号、1984年1月。
- 07 「キルヒナー他作家解説」、『ドイツ表現派展』（神奈川県立近代美術館）、1984年8月。
- 08 「デイヴィット・ホックニーの絵画—現代版画ロンドン・ニューヨーク展から」、『ひる・ういんど』第6号、三重県立美術館ニュース、1984年8月。
- 09 「モロー《若者と死》」、『ひる・ういんど』第8号、三重県立美術館ニュース、1985年1月。

- 10 「平櫛田《醉吟行》他作品解説」、『橋本平八と円空』（三重県立美術館）、1985年9月。
- 11 「大正末期の彝」、『ひる・ういんど』第9号、三重県立美術館ニュース、1985年2月。
- 12 「萬鉄五郎年譜」（牧野研一郎との共著）、『生誕百年記念・萬鉄五郎展』（三重県立美術館）、1985年7月。
- 13 「石本正・片岡球子及び平山郁夫作家及び作品解説」、『日本画の現在をみる』（三重県立美術館）、1986年1月。
- 14 「萬鉄五郎の心象風景画《木の間より見下した町》」、『ひる・ういんど』第13号、三重県立美術館ニュース、1986年2月。
- 15 「パリを描いた日本人」、『芸術グラフ』第7巻2号、日本美術出版、1986年3月5日。
- 16 「黒田清輝《昔語り下絵》《感》作品解説」、『生誕百年記念・黒田清輝展』（三重県立美術館）、1986年5月。
- 17 「パリを描いた日本人画家展」、『絵』第264号、日動画廊編集部、1986年2月。
- 18 「ハンス・アルプ〈小劇場〉他4編作品解説」、『生誕百年記念・アルプ展』（富山県立近代美術館）、1986年6月。
- 19 「アルプ展について」、『ひる・ういんど』第15号、三重県立美術館ニュース、1986年7月。
- 20 「関根正二の〈死を思ふ日〉雑感」、『ひる・ういんど』第16号、三重県立美術館ニュース、1986年11月。
- 21 「サロン・ド・メの画家たちと日本の洋画家たち」、『ひる・ういんど』第19号、三重県立美術館ニュース、1987年6月。
- 22 「マリアの被昇天とその造形表現」、『ひる・ういんど』第20号、三重県立美術館ニュース、1987年8月。
- 23 「ジェームズ・テイソ《カンラン山から見たエルサレム》他3編作品解説」、『ジェームズ・テイソ』（三重県立美術館）、1988年2月。
- 24 「ドガ展余滴一画面の継ぎ足しをめぐって」、『ひる・ういんど』第25号、三重県立美術館ニュース、1989年1月。
- 25 「鹿子木孟郎と印象派」、『ひる・ういんど』第33号、三重県立美術館ニュース、1990年12月。
- 26 「キュビズムへの抵抗—1917年18年の萬鉄五郎」、『美學』、第163号（美学会発表要旨）、1990年12月。
- 27 「1989年（平成元年）度収集品について」、『ひる・ういんど』第30号、三重県立美術館ニュース、1990年3月。
- 28 「モネ《ラ・ロシェブロンドの村》」、『岡田文化財団寄贈作品集』（三重県立美術館）、1990年3月。
- 29 「鬚光他9編作家解説」、『現代日本・朝日人物事典』、朝日新聞社、1990年12月。
- 30 「前田寛治とクールベ、アングル、そしてファン・ゴッホ」、『ひる・ういんど』第35号、三重県立美術館ニュース、1991年7月。
- 31 「清水登之《チャプスイ店にて》他19編作品解説」、『125の作品・三重県立美術館』（三重県立美術館）、1992年4月。
- 32 「大坂画壇のコレクションから—北野恒富の「慶長美人」—」、『籍苑』、第35号、関西大学図書館、

1992年9月。

- 33 「大坂画壇—江戸から昭和に至る絵画—解説」、『大坂画壇—江戸から昭和に至る絵画—』、関西大学図書館、1993年4月。
- 34 「耳鳥齋と大坂の戯画—『大坂画壇』に寄せて—」、『関西大学通信』第217号、関西大学広報委員会、1993年4月。
- 35 「西田逸堂と大阪の絵画」、『西田家寄贈—近世・近代の絵画』、関西大学図書館、1994年4月。
- 36 「大阪の四条派画家、西山完瑛の《養蚕図》」、『阡陵』29号、関西大学博物館、1994年9月。
- 37 「大阪の女流画家・生田花朝の風俗画」、『籍苑』第39号、関西大学図書館、1994年9月。
- 38 「野崎村—鏑木清方の世界—」、『関西大学通信』第241号、関西大学広報委員会、1996年1月。
- 39 「中井藍江と大坂画壇の画家たち」、『中井藍江とその周辺の画家たち』、関西大学図書館、1996年4月。
- 40 「中井藍江と大坂画壇の画家たち」、『関西大学通信』第244号、関西大学広報委員会、1996年4月。
- 41 「現代美術の表現と手法—湯原和夫から新世代へ—」、『国立国際美術館月報』48、大阪国立国際美術館、1996年9月。
- 42 「元永定正の1990年代・ユーモアの百鬼夜行」、『元永定正展』、三重県文化会館、1997年3月。
- 43 「狩野永岳の再評価—妙心寺春光院客殿障壁画をめぐる—」、『美學』（美学会発表要旨）第191号、1997年12月。
- 44 「富岡鉄斎の聖澤院書院障壁画《巖栖谷飲図》について」、『美術史』第144号、（美術史学会発表要旨）、1998年3月。
- 45 「富岡鉄斎《巖栖谷飲図》」、『美術フォーラム21』、創刊号、醍醐書房、1999年11月。
- 46 「横山清暉《蘭亭曲水・舟遊図屏風》」、『美術フォーラム21』、創刊号、醍醐書房、1999年11月。
- 47 「田中日華《韃靼人狩猟図屏風》」、『美術フォーラム21』、創刊号、醍醐書房、1999年11月。
- 48 「富田溪仙『香椎・笠崎』」、『美術フォーラム21』第3号、醍醐書房、2000年11月。
- 49 「特集・〈生と死〉と美術」（特集解説）、『美術フォーラム21』、第8号、醍醐書房、2003年6月。
- 50 「展覧会資料紹介・パリを描いた日本人画家」、『哲学』第23号、関西大学哲学会、2003年9月。
- 51 「山岡泰造先生—骨董学と直観の人—」、『哲学』第24号、関西大学哲学会、2004年3月。
- 52 「物部晃二先生—哲学的な含羞の人—」、『哲学』第25号、関西大学哲学会、2005年10月。
- 53 「村上華岳『画論』と大正期の精神」、『大正ロマン』第27号、華宵会、2006年2月20日。
- 54 「伝狩野永岳《琴棋書画図》幕末京狩野の光芒」、『美術フォーラム21』第13号、美術フォーラム21刊行会（第13号より編集・発行が醍醐書房から美術フォーラム21刊行会に移行）、2006年4月。
- 55 「『大坂画壇』は蘇るか？『綺麗なもん』から『面白いもん』まで」（特集解説）、『美術フォーラム21』第17号、美術フォーラム21刊行会、2008年5月30日。
- 56 「宇田荻邨《祇園の雨》雑感」、『ぎおん』、祇園甲部組合、2009年8月。
- 57 「耳鳥齋筆《大石氏祇園—力康楽之図》（関西大学図書館蔵）」、『関西大学博物館紀要』第15号、2010年3月31日。
- 58 「今、ミュージアム・ピースとは何か」、『視覚の現場—四季の綻び—』、醍醐書房、2010年4月。

- 59 「耳鳥齋『画本古鳥図賀比』(上中下巻)一冊」(資料紹介)、『美術フォーラム21』第24号、美術フォーラム21刊行会、2011年11月30日。
- 60 「蘭亭曲水図—蘇州から大坂へ—」、『大正癸丑蘭亭会百周年記念—近代日本における翰墨の盛典—』、関西大学大正癸丑蘭亭会百周年記念実行委員会、2013年4月1日、11-12頁。
- 61 「葉雨《蘭亭修禊図》」他作品解説6編、『大正癸丑蘭亭会百周年記念—近代日本における翰墨の盛典—』、関西大学大正癸丑蘭亭会百周年記念実行委員会、2013年4月1日。
- 62 「美術活動の21世紀—現代日本の視覚展に寄せて—」、『現代日本の視覚展』、現代日本の視覚展実行委員会、2013年9月4日。
- 63 「アジアにおける大阪とその文化」、『大阪商業大学商業史博物館紀要』第14号、大阪商業大学商業博物館、2013年11月10日、136-143頁。
- 64 「東西学術研究所の中期行動計画—泊園書院研究プロジェクト—」、『東西学術研究所々報』第89号、2014年4月1日。
- 65 「花鳥画の展開—室町時代から江戸時代へ—」、『シンポジウム花鳥画の世界』、承天閣美術館、2014年11月9日。
- 66 「序文」(松浦章著『近代東アジア海域の人と船—経済交流と文化交渉—』、関西大学出版部、2014年12月)。
- 67 「序文」(陶徳民編著『重野安繹における外交—漢文と国史—』、関西大学出版部、2015年3月)。
- 68 「序文」(井上克人著『〈時〉と〈鏡〉・超越的覆蔵性の哲学—道元・西田・大拙・ハイデガーの思索をめぐって—』、関西大学出版部、2015年3月)。
- 69 「序文」(吾妻重二著『家礼文献集成 日本篇三』、関西大学出版部)、2015年3月。
- 70 「序文」(吾妻重二著『家礼文献集成 日本篇四』、関西大学出版部)、2015年3月。
- 71 「序文」(内田慶市編著『関西大学澤文庫蔵琉球官話課本集』、関西大学出版部)、2015年3月。
- 72 「琳派・やまと絵の広がり」、『生活美術としての琳派』、一般社団法人美術フォーラム21、2015年7月12日、3-4頁。
- 73 「序文」(松浦章著『日本台湾統治時代のジャンク型帆船資料 中国式帆船のアーカイヴズ』、関西大学出版部)、2015年9月。
- 74 「大正癸丑蘭亭会100周年記念展覧会余滴—王羲之から喜田華堂へ—」、『阡陵』第71号、関西大学博物館、2015年9月30日。
- 75 「グローバリズムの方法論と日本美術史研究—国主義と受容研究を越えて—」、『美術フォーラム21』第32号、美術フォーラム21刊行会、2015年11月30日。
- 76 「序文」(吾妻重二著『家礼文献集成 日本篇五』、関西大学出版部)、2015年11月。
- 77 「序文」(吾妻重二著『家礼文献集成 日本篇六』、関西大学出版部)、2015年12月。
- 78 「序文」(内田慶市・沈國威編『東アジア言語接触の研究』、関西大学出版部)、2015年12月。
- 79 「序文」(陶徳民編著『吉田松陰と佐久間象山—開国初期の海外事情探索者たち(Ⅰ)』、関西大学出版部)、2016年3月。
- 80 「ガンダーラの仏像について思うこと」、『アジア文化フォーラム』第4号、関西大学アジア文化研究

科、2016年3月18日、13-15頁。

- 81 「瀧梅岡真理子に見る現代の雅」、『瀧梅岡真理子展』、ギャラリー砂翁（東京）、2016年3月23日。
- 82 「大岡春ト《浪花及澱川沿岸名勝図巻》と《平家物語絵巻》のデジタル化について」、『アジア文化研究センター・ディスカッションペーパー』巻12、関西大学CSAC、2016年3月31日、27-35頁。
- 83 「洋の『東西』をめぐって」、『関西大学東西学術研究所々報』第91号、東西学術研究所、2016年5月1日。
- 84 「森周峯《鮎図》と《虎図》」、『美術フォーラム21』第33号、美術フォーラム21刊行会、2016年5月30日。
- 85 「昨今関西の美術館事情をめぐる座談会」（中谷伸生、岸文和、橋爪節也、原田平作、宮下規久朗、吉岡洋）『美術フォーラム21』第34号、美術フォーラム21刊行会、2016年11月30日。
- 86 「『蘭亭曲水図』の画題」、『画題—描かれたもの—』（絵入本ワークショップX資料集）、実践女子大学文芸資料研究所、34-36頁、2017年12月8日。
- 87 「忘却された大坂の南蘋派」、『花鳥画の系譜—東溪と南蘋派—』展覧会カタログ（高松市歴史資料館）、2018年1月27日。
- 88 《益王重刻小蘭亭図巻（小本）》—「蘭亭曲水図」の源流、展開、画題をめぐって—、『関西大学博物館紀要』第24号、関西大学博物館、2018年3月31日。
- 89 「山本竟山を取り巻く絵画的イメージ—呉昌碩、富岡鉄斎と東アジアの近代文人画—」、『山本竟山の書と学問—湖南・雨山・鉄斎・南岳との文人交流ネットワーク—』、関西大学博物館、2018年4月1日。
- 90 「パリ・ソナムラールからの葉書—石濱純太郎宛の小出楯重による便り—」、『東西学術研究と文化交渉』、東西学術研究所、2018年10月26日。
- 91 「瀧梅岡真理子—スペインと日本との闇と光の往還—」、『瀧梅岡真理子展—透明な情熱の闇—』（インスティテュット・セルバンテス東京）、MTU STUDIO、2019年6月26日。
- 92 「《ヴァイオリン》の黒いかたまり」、『須田記念 視覚の現場』祝賀復刊記念号、須田国太郎美術振興会、2019年7月。
- 93 「淀川図巻の超高精細デジタル化—驚きの一事例—」、関西大学文化交渉学ニューズレターNo.5、関西大学文化交渉学研究拠点、2019年8月。
- 94 「江戸時代に描かれた淀川とその文化力」、『おおさか探求』、関西大学社会連携部・地域連携センター、2019年10月23日。

【翻訳】

- 01 「芸術について」（フェルディナント・ホドラー著）、〔独文和訳〕、『チューリヒ・予兆の十字路（ドイツの世紀末）』第5巻所収、国書刊行会、1987年2月、95-107頁。
- 02 「ホドラー」（エーミール・ルートヴィヒ著）、〔独文和訳〕、『チューリヒ・予兆の十字路（ドイツの世紀末）』第5巻所収、国書刊行会、1987年2月、108-114頁。
- 03 「彫刻家ドガ」（ロナルド・ピックヴァンス著）、〔英文和訳〕、『ドガ展』、三重県立美術館・東京新

聞、1989年10月、160-163頁。

- 04 「ドガ《カフェ・コンセルの歌手》他計13作品解説」(ロナルド・ピックヴァンス著)、[英文和訳]、『ドガ展』、三重県立美術館・東京新聞、1989年10月、70-71頁、81-82頁、97-98頁、126-136頁。
- 05 「ヤン・トーロップ《宿命論》他計50作品解説」(ヴィクトリーヌ・ヘフティング著)、[英文和訳]、『トーロップ展』、三重県立美術館・東京新聞、1989年10月、56-98頁。
- 06 「スペインのシュルレアリスムについて」(ホセ・ルイス・モラーレス・イ・マリン著)、[英文和訳]、『100の絵画・スペイン20世紀の美術』、三重県立美術館、1991年10月、20-25頁。

【学会発表】

- 01 「シャルトル大聖堂西正面の薔薇窓をめぐる一解釈」、関西大学哲学会秋期大会、1978年11月。
- 02 「シャルトル大聖堂における《Maître B》の構想」、第129回美術史学会西部会、同志社大学、1980年6月。
- 03 「キュビズムへの抵抗—1917年・18年の萬鐵五郎—」、第41回美学会全国大会、広島大学、1990年2月10日。
- 04 「大阪の日本画家西田逸堂のコレクション」、近代大阪美術研究会、1993年7月30日。
- 05 「宇田荻邨の写生帖について」、関西大学哲学会春季大会、1994年12月10日。
- 06 「大正期における日本画の下絵—宇田荻邨の天下絵を中心に」、美術史学会西部会、1995年6月。
- 07 「富岡鐵齋の聖澤院書院障壁画『巖栖谷飲図』について」、美術史学会西部会、1997年3月。
- 08 「狩野永岳の再評価・妙心寺春光院客殿障壁画をめぐる一考察」、48回美学会全国大会、1997年10月。
- 09 「日本美術史研究と大英博物館」、関西大学哲学会春期大会、関西大学図書館、2000年7月。
- 10 「えげれず美術事情—大坂画壇の絵、流出考—」、大阪近代美術研究会、2000年10月。
- 11 「大坂の絵画・兼葭堂とその周辺」、日本思想史学会2001年度大会、2001年10月21日。
- 12 「廣田孝著『竹内栖鳳：近代日本画の源流』(思文閣出版2000年3月)について」、第53回美学会全国大会、2002年10月12日。
- 13 「建築と美術・岡倉天心と日本の文化」、電気設備学会(全国大会)、2004年9月9日。
- 14 「耳鳥齋彼此嘯」、近代大阪美術研究会、2005年6月11日。
- 15 「耳鳥齋の版本と肉筆画」、絵入本学会(ワークショップⅡ)、実践女子大学、2006年9月18日。
- 16 「大阪の絵画と東アジア」、近代大阪美術研究会、2007年11月24日。
- 17 「浮田一蕙《長篠合戦図》障壁画について」、長篠合戦顕彰会研究例会、設楽原歴史資料館、2009年11月14日。
- 18 「美術に見る親密なるものの表象コメント」、第62回美術史学会全国大会シンポジウム、京都大学、2009年5月23日。
- 19 「耳鳥齋の肉筆画」、絵入本学会(ワークショップⅣ)、大和文華館、2010年12月4日。
- 20 「大坂画壇はなぜ忘れられたのか」、大阪近代美術研究会、関西大学文学部第一学舎、2010年11月6日。
- 21 「近代挿絵画家の分類試論」、大正イマジユリイ学会、同志社大学、2010年7月31日。

- 22 「フェノロサ・天心から東アジア美術史の構想へ—大坂画壇はなぜ忘れられたのか」、日本フェノロサ学会、大阪大学中之島センター、2013年9月21日。
- 23 「南島への憧れ—日本画家の宇田荻邨をめぐる」、南島史学会第四十五回全国大会、沖縄県立博物館・美術館、2016年7月9日。
- 24 「台湾イメージの選択と陳進の膠彩画（日本画）」、南島史学会第46回大会、関西大学、2017年7月29日。
- 25 「蘭亭曲水図の画題」、絵入本学会（ワークショップ第10回）、実践女子大学、2018年12月10日。

【国際学会および海外研究発表】

- 01 「インド美術と岡倉天心—アジア主義の美術批評家」、関西大学国際シンポジウム、関西大学マルチメディア教室（日本・大阪）、2004年11月20日。
- 02 「大坂画壇と中国絵画—東アジア美術史の構想へ—」、日中交流史研究会、浙江工商大学（中国・杭州）、2006年9月25日。
- 03 「大坂画壇と清代の中国絵画—沈南蘋による長崎派絵画の伝播を中心に—」、国際学術研討会、復旦大学（中国・北京）、2005年6月26日。
- 04 「一九三〇年代の日本画と台湾画家陳進」、「静宜大学・日本学与台湾学」国際学術研討会、静宜大学（台湾・台中）、2007年5月19日。
- 05 「狩野永岳与中国文化」、第2回伝統中国研究国際学術研討会、上海社会科学院（中国・上海）、2007年7月22日。
- 06 「近代的日本画与台湾的膠彩画」、東亜文化交流与經典詮釋国際学術研討会、国立台湾大学（台湾・台北）、2007年10月26日。
- 07 「日本の文人画と東アジア—『文人画』か『南画』か—」、国際シンポジウム「東アジアの文人世界」、関西大学以文館（日本・大阪）、2008年1月19日。
- 08 「大坂画与明清画—論東亜美術史構想—」、第5回日本漢学国際学術研討会、国立台湾大学（台湾・台北）、2008年3月29日。
- 09 「日本の美術活動及美術作品的評價」、「跨越海洋」国際学術研討会、台湾国立海洋大学（台湾・基隆）、2008年11月。
- 10 「近代大坂の絵画と東アジア—菅楯彦と矢野橋村」、CSAC第5回国際シンポジウム「東アジアにおける文化情報の発信と受容」、関西大学以文館（日本・大阪）、2009年6月1日。
- 11 「日本近世近代絵画史研究の方法と東アジア」、東アジア文化交流—学術論争止揚をめざして—、浙江工商大学（中国・杭州）、2009年9月19日。
- 12 「美術作品とアーカイヴズ化—美術史研究を踏まえて—」、嶺南大学国際シンポジウム、嶺南大学（韓国・大邱）、2012年11月3日。
- 13 「大坂画壇と岡倉天心—東アジア美術史の構想—」、広東社会科学院研究発表会、広東海洋史研究中心（中国・広州）、2013年9月26日。
- 14 「18世紀における大坂画壇と南蘋派」、中日文化学術検討会、中山大学華南日本文化研究所（中国・

広州)、2013年9月27日。

- 15 「マンガ・アニメーションと菅橋彦—東アジアの文化的伝統と現代—」、国際シンポジウム、嶺南大学 (韓国・大邱)、2014年8月26日。
- 16 「鏑木清方と1930年代の日本画と陳進」、海洋文化国際学術検討会および海峡兩岸東亜沿岸地区與島文化学術検討会、国立台湾海洋大學海洋文化研究所 (台湾・基隆)、2014年11月23日。
- 17 「京都の狩野派絵画と東アジアの絵画」、国立台湾大学日本研究中心および文学研究科および東西学術研究所による研究生聯合発表会、国立台湾大学 (台湾・台北)、2015年3月27日。
- 18 「文化交渉学から見る日本と台湾の膠彩画 (日本画)」、南島史学会第44回全国大会、台湾国立大学 (台湾・台北)、2015年5月30日。
- 19 「木村兼葎堂の文人趣味と文化交渉」、ICIS 国際シンポジウム「文化交渉学のパースペクティブ」、関西大学以文館 (日本・大阪)、2015年7月18日。
- 20 「十八世紀・十九世紀的日本《澱川圖》—日本與中國の往来—」、国立台湾海洋大学海洋文化研究所 (台湾・基隆)、2015年10月16日。
- 21 「淀川図巻と平家物語絵巻のデジタル化」、CSAC 第2回国際シンポジウム「東アジア文献資料アーカイブスの現状と国際ネットワーク」、関西大学以文館 (日本・大阪)、2015年10月25日。
- 22 「文化交渉学へ越境する日本美術史学」、第2回関西大学・国立台湾大学院生共同研究発表会—日本と台湾から照射する文化交渉—、関西大学以文館 (日本・大阪)、2016年4月23日。
- 23 “Salon Networks in Osaka: ‘Kimura Kenkado’s Salon and its relationship with Ueda Akinari, Kontonsha Chinese Poetry Group, Baisao and Daiten Kenjo”、The Symposium “The Role of Art and Literature Salon in 18th and 19th Century Japan”、ロンドン大学 SOAS (イギリス・ロンドン)、2016年9月6日。
- 24 「日本美術史研究とグローバリズム」、第9回東アジア文化交渉学会、北京外国語大学 (中国・北京)、2017年5月13日。
- 25 「東アジア美術史の構想と大坂画壇の再評価」、EAJS 国際学会、リスボン大学 (ポルトガル・リスボン)、2017年9月2日。
- 26 「『蘭亭曲水図』の画題と日中の交流—益王重刻小蘭亭図巻から池大雅へ」、第10回 東アジア文化交渉学会、香港城市大学李宗徳講堂・李達三葉耀珍學術三樓 (中国・香港)、2018年5月12日。
- 27 「陳進と膠彩画 (日本画) の文化交渉」、南島史学会、玄奘大学 (台湾)、2018年6月29日。
- 28 「大坂画壇と京・大坂の文化ネットワーク」、KU-ORCAS 国際シンポジウム、関西大学尚文館マルチメディア AV 大ホール (日本・大阪)、2018年7月28日。
- 29 「蘆雪と大坂画壇」、蘆雪国際シンポジウム、チューリッヒ大学 (スイス・チューリッヒ)、2018年10月20日。
- 30 「パリ・ソナムラールからの葉書—石濱純太郎宛の小出楯重による便り—」、東西学術研究と文化交渉—石濱純太郎没後50年記念国際シンポジウム (第58回 泊園記念講座)、関西大学以文館 (日本・大阪)、2018年10月27日。
- 31 「大坂画壇2021年展覧会企画をめぐって」、The joint research project, “Osaka Painting and Kyoto-

Osaka Salon Culture”, ロンドン大学 SOAS (イギリス)、2018年10月24日。

- 32 「フェノロサ・岡倉天心と日本文人画の評価—西洋的価値観との対立をめぐって—」、東アジア文化交渉学会第11回大会、フリードリヒ・アレクサンダー大学 (ドイツ・エアランゲン、ニュルンベルグ)、2019年5月11日。

【研究例会口頭発表】

- 01 「狩野永岳の作者特定と真贋」、関西大学東西学術研究所研究例会、関西大学簡文館、2003年12月5日。
- 02 「池大雅と東洋の点描技法」、関西大学東西学術研究所研究例会、関西大学簡文館、2004年12月10日。
- 03 「日本近世近代絵画と大坂画壇の再評価について」、関西大学東西学術研究所研究例会、関西大学児島惟謙館、2005年10月21日。
- 04 「沈南蘋と大坂の長崎派—葛蛇玉筆「山高水長図」を中心に—」、関西大学アジア文化交流研究センター第3回研究集会、関西大学以文館、2006年2月6日。
- 05 「大坂画壇と江戸絵画—岡倉天心が評価したもの・しなかったもの」、関西大学東西学術研究所研究例会、関西大学児島惟謙館、2006年6月16日。
- 06 「大英博物館と日本美術史研究—日本美術と英米—」、関西大学美学美術史研究会シンポジウム、関西大学図書館、2006年11月28日。
- 07 「矢野橋村と東アジアの文人趣味」、関西大学東西学術研究所研究例会、関西大学六甲山荘、2007年3月15日。
- 08 「岡倉天心と日本美術史」、関西大学アジア文化交流研究センター研究集会、関西大学以文館、2009年7月3日。
- 09 「文化交流研究から文化交渉研究へ—美術史学をてがかりに—」(基調講演) 関西大学アジア文化交流研究センター第15回研究集会、関西大学以文館、2010年3月6日。
- 10 「久昌院障壁画の研究」、関西大学東西学術研究所研究例会、関西大学児島惟謙館、2011年6月15日。
- 11 「英日における近世絵画コレクションとアーカイブズ化」、関西大学アジア文化研究センターⅡ研究例会、関西大学以文館、2012年1月28日。
- 12 「耳鳥齋のアーカイブズ」、関西大学アジア文化研究センター第2回研究集会 (アーカイブズと知の再構築)、関西大学以文館、2012年11月22日。
- 13 「扇面画の東西文化交渉—日本、韓国、中国からヨーロッパへ—」、関西大学東西学術研究所研究例会、関西大学児島惟謙館、2012年10月17日。
- 14 「荒川修作+マドリン・ギンズが捨てようとしたもの」、天命反転・東西の身体観を超えて—荒川修作+マドリン・ギンズと現代の建築・芸術・思想— (関西大学東西学術研究所特別講演会)、関西大学以文館、2013年11月22日。
- 15 「大坂の戯画作者・耳鳥齋アーカイブズ」、関西大学アジア文化研究センター第30回研究例会、2015年1月30日。
- 16 「岡田半江筆《山水図巻 (大川納涼図)》」、なにわ大阪研究プロジェクト研究会、関西大学社会学部

STEP、2015年3月6日。

- 17 「木村兼葭堂の文人趣味と文化交渉」、ICIS 国際シンポジウム—文化交渉学のパースペクティブ、関西大学以文館、2016年7月18日
- 18 「藤澤南岳の芸術趣味を支えたもの」、泊園書院シンポジウム（第56回泊園記念講座）「泊園書院と漢学・大阪・近代日本の水脈」、関西大学第1学舎1号館A601教室、2016年10月30日。
- 19 「文化交渉学へ越境する日本美術史学」、第2回関西大学・国立台湾大学院生共同研究発表会—日本と台湾から照射する文化交渉—、関西大学児島惟謙館、2016年4月23日。
- 20 「デジタル・アーカイブの一事例—大坂の淀川図巻をめぐる—」、KU-ORCAS キックオフセミナー、関西大学以文館、2017年9月22日。
- 21 「大坂画壇から東アジアへ」、関西大学3研究所合同シンポジウム、関西大学尚文館マルチメディアAV大ホール、2017年10月13日。
- 22 「大坂画壇における四条派」、大阪商業大学シンポジウム（文化庁後援）、2017年11月18日。
- 23 「藤澤南岳による題跋と大坂画壇」、KU-ORCAS 第3回研究集会、関西大学以文館、2018年3月16日。
- 25 「大坂画壇と京・大坂の文化ネットワーク」、KU-ORCAS 国際シンポジウム、関西大学尚文館マルチメディアAV大ホール、2018年7月28日。
- 26 「小出楯重《パリ・ソムラールの宿にて》」、関西大学東西学術研究所研究会、三重県立美術館、2019年2月28日。

【講演会】

- 01 「日本近代の洋画家たち」、1982年10月21日、三重県立美術館。
- 02 「現代美術の見どころ」、1983年7月9日、三重県立美術館。
- 03 「モローと象徴主義の画家たち」、1985年1月19日、三重県立美術館。
- 04 「素描について」、1986年11月15日、三重県立美術館。
- 05 「井上武吉の作品を巡って」、1987年1月13日、三重県立美術館。
- 06 「関根正二とその時代の画家たち」、1987年9月27日、三重県立美術館。
- 07 「大正期の洋画」、1991年10月、鈴鹿市文化会館。
- 08 「海外に流出した大坂の絵画」、大阪府立中之島図書館特別講演会、2001年11月17日、中之島図書館。
- 09 「京の日本画—幕末から明治、大正へ—」（関西大学大阪文化セミナー）、2001年10月16日、関西大学・大阪府立文化情報センター。
- 10 「大坂四条派の再評価、藍江、耕夫など」、2001年11月1日、懐徳堂秋季講座。
- 11 「東西の点描」、静岡県立美術館講演会、2003年3月、静岡県立美術館。
- 12 「笑う大阪、耳鳥齋の眼」（澤井浩一氏との対談）、伊丹市立美術館講演会、2005年4月23日、伊丹市立美術館。
- 13 「近世大坂画壇への誘い」（橋爪節也氏との対談）、日本美術史セミナー、2005年4月9日、芦屋市立美術博物館。

- 14 「英国に見る大阪画壇」、日本美術史セミナー、2005年6月11日、芦屋美術博物館。
- 15 「文人画とは何か？—池大雅と与謝蕪村」、美術教養講座、2005年10月2日、倉敷市立美術館。
- 16 「大坂画壇の位置づけ—木村兼葎堂とその周辺」、美術教養講座、2005年11月4日、りそな銀行大阪本社。
- 17 「写生派とは何か？—沈南蘋と円山応挙と伊藤若冲」、美術教養講座、2005年12月4日、倉敷市立美術館。
- 18 「英国で脚光を浴びた大坂の絵画」、芦屋美術博物館講演会、2006年10月14日、芦屋美術博物館。
- 19 「狩野派の終焉—岡倉天心と新日本画」、美術教養講座、2006年10月14日、倉敷市立美術館。
- 20 「大坂画壇の絵画—文人画・戯画から長崎派・写生画へ—」、関西大学120周年記念講演会、2006年11月16日、関西大学図書館。
- 21 「現代アートに蘇る《源氏物語絵巻》」（菅原布寿史との対談）、2009年3月28日、三重県立美術館。
- 22 「近世大坂文人画の世界」、近世大坂文人画の世界企画展講演会、2009年5月、芦屋市立美術館。
- 23 「兼葎堂と大坂の画家たち」顛川美術館美術公開講座、2009年6月21日、顛川美術館。
- 24 「近世なにわの奇才！木村兼葎堂を取り巻く文人画家たち」、大阪市立図書館講演会、2010年9月4日、大阪市立図書館。
- 25 「大坂画壇から東アジア美術史の構想へ」、渋沢栄一記念財団寄附講座、2011年1月6日、関西大学。
- 26 「アジアの中の大坂」、シンポジウム商都大阪の文化力、2012年10月20日、大阪商業大学。
- 27 「大坂画壇の再評価とその展望」、美術講座、2013年5月3日、大阪くらしの今昔館。
- 28 「大坂画壇座談会」、文化講座、2013年6月23日、吹田市立博物館。
- 29 「大坂画壇の現状と展望」、美術講座、2013年6月15日、安中新田会所跡 旧植田家住宅。
- 30 「鉄齋の妙心寺聖澤院障壁画《巖栖谷飲図》を見る」、第2回聖光文庫文化講座、2013年12月8日、宝塚市立中央図書館。
- 31 「岡田半江の文人画における日中—山水図巻《大川納涼図》をめぐって—」、大正癸丑の京都蘭亭会を成功に導いた人達講演会、2013年12月22日、大阪市立生涯学習センター。
- 32 「浪花及淀川沿岸名勝図巻」、淀川今昔明日ものがたり、関西テレビ、2014年2月23日。関西テレビ扇町スクエア。
- 33 「淀川今昔明日ものがたりⅡ—大岡春卜絵巻の世界から未来へ—」2014年5月25日、グランフロント大阪北館キャピタル・ナレッジ。
- 34 「復古大和絵と菅楯彦」、美術講演会、2014年11月8日、大阪商業大学ネットワーク・レクチャールーム。
- 35 「花鳥画の展開—室町時代から江戸時代へ—」、2014年11月9日、承天閣美術館。
- 36 「日本の現代美術と伝統—淀川図巻からミニマルアートまで—」、韓国慶尚大セミナー（韓日文化産業高級人材養成課程講義）、2015年2月9日、関西大学。
- 37 「近世の大坂画壇—美術品から江戸を視る—」、2015年6月12日、NHK文化センター（京都）。
- 38 「耳鳥齋と大坂の戯画—漫画の源流—」、第39回文化講座、2015年6月21日、顛川美術館。
- 39 「北野恒富の絵画表現とその評価」、連続講座、2015年11月6日、大阪商業大学。

- 40 「大岡春卜《淀川絵巻》一堺から道頓堀までの風景と大坂画壇の画家たち―」、さかい利晶の杜講演会、2016年3月5日。さかい利晶の杜。
- 41 「大坂の画家たち―近世から近代へ―」、美術講演会、2016年6月18日、泉屋博古館（京都）。
- 42 「江戸時代の絵画と茨木」、連続講演会、2016年11月19日、茨木市立文化財資料館。
- 43 「大坂画壇はなぜ忘れられたのか」、なにわ再発見講座、2016年12月21日、毎日文化センター。
- 44 「近世大坂画壇の画家たちを眺望する」、美術講演会、2017年2月25日、西宮市立大谷記念美術館。
- 45 「大坂の四条派」、花外楼のなにわ大阪ものがたり、2017年7月8日、グランフロント大阪。
- 46 「忘れられた大阪の絵画」、大阪市教職員対象研修講座、2017年8月3日、関西大学。
- 47 「泊園書院と大坂の絵画」、2017年11月13日、大阪府公開講座フェスタ。
- 48 「忘れられた大坂の南蕨派」、記念講演、2018年2月10日、高松市歴史資料館。
- 49 「林原美術館所蔵の絵画コレクションと展覧会の構想」、2018年3月18日、グランフロント大阪。
- 50 「淀川の今と昔をデジタル画像にて紹介」、グリーンキャンパス、2018年6月17日、関西大学第2学舎4号館。
- 51 「絵画のデジタル化とその可能性」、第47回生涯学習吹田市民大学、2018年6月27日、関西大学千里ホール。
- 52 「絵画・古書こぼればなし」、古本大学講座、2018年10月14日、大阪古書会館。
- 53 「パリ・ソムルールからの葉書―石濱純太郎宛の小出楯重による便り―」、第58回泊園記念講座、2018年10月27日、関西大学以文館。
- 54 「淀川は結ぶ！大坂町人ネットワーク―ある米屋親子のサロンと交遊―」（明尾圭造との対談講演）、2018年11月20日、大阪グランフロント・キャピタルナレッジ。
- 55 「江戸時代に描かれた淀川とその文化力」（おおさか探究）、関西大学おおさか文化セミナー、2019年10月23日、関西大学梅田キャンパス。

【シンポジウム総合司会】

- 01 「大正の「小美術品店」（司会及び注釈）」、大正イマジュリィ学会全国大会、藤井達吉現代美術館、2010年3月7日。
- 02 「茶の湯―スキの芸術総合司会」、茶の湯―スキの芸術シンポジウム（美術フォーラム21刊行会主催）、京都国立近代美術館、2012年12月23日。
- 03 「大正癸丑蘭亭会百周年記念・円卓会議」（司会）、関西大学百周年記念会館、2013年4月13日。
- 04 「これでいいのか？ 大阪のミュージアム―地域文化と学術研究の担い手を目指して―」（司会）、大阪大学中之島センター、2013年11月9日。
- 05 「奇想の画家はもう飽きた―浪花の町絵師 菅楯彦の世界―」（司会）、大阪商業大学商業史博物館、2014年11月15日。
- 06 「生活美術としての琳派」（総合司会）、一般社団法人美術フォーラム21、京都国立近代美術館、2015年7月12日。
- 07 「第7回EUワークショップ研究交流会」（司会）、チューリッヒ大学（スイス）、2015年11月10日。

- 08 「第8回EUワークショップ研究交流会」(司会)、チューリッヒ大学(スイス)、2016年11月5日。
09 「大坂画壇と京の文化をめぐる研究と展覧会企画」(関西大学東西学術研究所国際シンポジウム・東と西の文化交流一書・文・絵一)(司会)、関西大学以文館、2019年8月2日。

【新聞原稿】

- 01 「何らかの思想を伝達する武器に」、『中日新聞』(朝刊)、1981年9月22日。
02 「小出楯重《裸女立像》裸女の像に独自の境地」、『中日新聞』(朝刊)、1982年8月13日。
03 「中谷泰《陶土・力強い造形的特質》」、『毎日新聞』(日刊)、1982年9月12日。
04 「受胎告知・強い運動感与える」、『朝日新聞』(朝刊)、1982年10月9日。
05 「ドーミエ《パリっ子のタイプ》」、『毎日新聞』(朝刊)、1983年8月3日。
06 「ドーミエ《田園詩》」、『毎日新聞』(朝刊)、1983年8月4日。
07 「温厚な人間性漂う(ドーミエ)」、『毎日新聞』(朝刊)、1983年8月5日。
08 「土田麦僊《髪》」、『朝日新聞』(夕刊)、1983年9月27日。
09 「小野竹喬《島二作》」、『朝日新聞』(夕刊)、1983年10月12日。
10 「ジャコモ・マンズー《キリスト降下》」、『中部読売新聞』(夕刊)、1984年4月7日。
11 「リチャード・ハミルトン《ブラック・クリスマスを夢みて》」、『朝日新聞』(夕刊)、1984年6月14日。
12 「パトリック・コールフィールド《おゝ、ヘレン、私は部屋の中を歩き廻る》」、『朝日新聞』(夕刊)、1984年6月16日。
13 「デイヴィッド・ホックニー《髪を梳くアン》」、『朝日新聞』(夕刊)、1984年6月20日。
14 「エーリッヒ・ヘッケル《眠るベヒシュタイン》」、『中日新聞』(夕刊)、1984年9月17日。
15 「キルヒナー《青い服の少女》」、『中日新聞』(夕刊)、1984年9月19日。
16 「マックス・ベックマン《帽子をかぶりマフを持った女》」、『中日新聞』(夕刊)、1984年9月22日。
17 「竹内栖鳳《鯖》」、『中部読売新聞』(夕刊)、1984年9月28日。
18 「高橋由一《鱈梅花》」、『中部読売新聞』(夕刊)、1984年10月6日。
19 「中村彝《カルピスの包み紙のある静物》」、『中日新聞』(夕刊)、1984年10月25日。
20 「モロー《イアソン》」、『中日新聞』(夕刊)、1985年1月5日。
21 「フェルナン・クノッフ《翼をつけた人物》」、『中日新聞』(夕刊)、1月11日。
22 「伊東深水《湯気》」、『中日新聞』(夕刊)、1985年4月1日。
23 「ロートレアモンへのオマージュ」、『毎日新聞』(夕刊)、1985年4月13日。
24 「岩中徳次郎《集-82》」、『中日新聞』(夕刊)、1985年4月16日。
25 「西脇順三郎・飯田善国《クロマトポイエマ》」、『中日新聞』(夕刊)、1985年5月7日。
26 「森芳雄《姉と妹》」、『中日新聞』(夕刊)、1985年5月9日。
27 「絹谷幸二《めぐりあう時》」、『朝日新聞』(夕刊)、1985年5月28日。
28 「マドリッド闘牛場の無蓋席で起った悲劇と、トレホーン市長の死」、『中部読売新聞』(夕刊)、1985年6月29日。

- 29 「陽気の妄」、『中部読売新聞』（夕刊）、1985年7月5日。
- 30 「萬鐵五郎《太陽の麦畑》」、『中部読売新聞』（夕刊）、1985年8月3日。
- 31 「萬鐵五郎《木の間から見下した町》」、『中部読売新聞』（夕刊）、1985年8月9日。
- 32 「萬鐵五郎《ほほ杖の人》」、『中部読売新聞』（夕刊）、1985年8月11日。
- 33 「萬鐵五郎《高麗山に見える砂丘》」、『中部読売新聞』（夕刊）、1985年8月15日。
- 34 「萬鐵五郎《枯れた花の静物》」、『中部読売新聞』（夕刊）、1985年8月18日。
- 35 「橋本平八《或る日の少女》」、『中日新聞』（夕刊）、1985年9月13日。
- 36 「ロダン《マダム・ロダン》人物全体の形態化を」、『毎日新聞』（朝刊）、1985年10月9日。
- 37 「キリスト降下」、『中部読売新聞』（夕刊）、1985年11月17日。
- 38 「東方三博士の礼拝」、『中部読売新聞』（夕刊）、1985年11月20日。
- 39 「モーセを拾うファラオの娘」、『中部読売新聞』（夕刊）、1985年12月4日。
- 40 「公立美術館の将来・親しまれる文化の核へ」、『中部読売新聞』（朝刊）、1986年1月5日。
- 41 「公立美術館の将来・ポリシーある企画展を（座談会）」、『中部読売新聞』（朝刊）、1986年1月7日。
- 42 「内に情念秘める」、『中日新聞』（夕刊）、1986年1月14日。
- 43 「山下新太郎《巴里コンコンコルド広場》」、『朝日新聞』（夕刊）、1986年4月12日。
- 44 「清水登之《パリ夜街》」、『朝日新聞』（夕刊）、1986年4月17日。
- 45 「黒田清輝《昔語り下絵（仲居）》」、『中部読売新聞』（夕刊）、1986年5月22日。
- 46 「黒田清輝《智・感・情》の中の『感』」、『中部読売新聞』（夕刊）、1986年5月28日。
- 47 「アルプ《大変偉大な人物》」、『中部読売新聞』（夕刊）、1986年7月16日。
- 48 「松本俊介《都会》」、『中日新聞』（夕刊）、1986年8月16日。
- 49 「関根正二《自画像》」、『朝日新聞』（夕刊）、1986年9月10日。
- 50 「上野山清貢《室内》」、『朝日新聞』（夕刊）、1986年9月14日。
- 51 「天才か狂気か一関根正二の謎」、『朝日新聞』（夕刊）、1986年9月24日。
- 52 「伊東深水《日照り雨》」、『朝日新聞』（夕刊）、1986年9月30日。
- 53 「愛好家羨望のプラハ美術館」、『東京新聞』（夕刊）、1987年3月24日。
- 54 「山口長男《割》」、『中日新聞』（夕刊）、1987年5月13日。
- 55 「中村岳陵《都会女性職譜・女給》」、『中日新聞』（朝刊）、1987年5月23日。
- 56 「相笠昌義《家族図Ⅱ》」、『朝日新聞』（夕刊）、1987年5月27日。
- 57 「上條陽子《玄黄-這3》」、『朝日新聞』（夕刊）、1987年6月16日。
- 58 「石井鶴三《柎錦立ち会い》」、『中部読売新聞』（夕刊）、1987年7月13日。
- 59 「松本俊介《婦人像》」、『中日新聞』（朝刊）、1987年7月25日。
- 60 「聖カタリナと天使」、『中日新聞』（夕刊）、1987年9月1日。
- 61 「デシュトナーの聖母被昇天と戴冠」、『中日新聞』（夕刊）、1987年9月2日。
- 62 「伝統と芸術的想像力の魅力・圧倒する宗教美術」、『中日新聞』（夕刊）、1987年9月11日。
- 63 「ドガ《靴を整える踊り子》」、『中日新聞』（朝刊）、1988年12月8日。
- 64 「『蘭亭会』100周年・日中の文化交流華やかに」、『産経新聞』（夕刊）、2013年4月6日。

- 65 「ハイカラ大坂画壇・江戸時代のクールジャパン」(耳鳥齋)、『産経新聞』(夕刊)、2013年10月5日。
- 66 「ハイカラ大坂画壇・淀川沿岸の名勝絵巻」(大岡春卜)、『産経新聞』(夕刊)、2013年12月5日。
- 67 「ハイカラ大坂画壇・『儲かる』だじゃれで人気」(森一鳳)、『産経新聞』(夕刊)、2014年2月6日。
- 68 「ハイカラ大坂画壇・笑う木村兼葭堂・大坂旦那衆の象徴的人物」(高川文筌)、『産経新聞』(夕刊)、2014年4月3日。
- 69 「ハイカラ大坂画壇・泥に咲いたデカダン美人」(北野恒富)、『産経新聞』(夕刊)、2014年6月5日。
- 70 「国際的な最前線を狙え」、『四国新聞』(朝刊)、2017年7月1日。

【展覧会企画・担当・監修】

- 01 「日本近代の洋画家たち展」、三重県立美術館、1982年10月28日～11月21日。
- 02 「生の哀歓をえぐる—ドーミエ版画展」、三重県立美術館、1983年8月13日～9月11日
- 03 「現代版画—ロンドン・ニューヨーク展」、三重県立美術館、1984年6月19日～7月8日。
- 04 「ブーフハイム・コレクションによる《ドイツ表現派展》」、三重県立美術館、1984年8月18日～10月7日。
- 05 「生誕百年—萬鉄五郎展」、三重県立美術館、1985年7月27日～8月25日。
- 06 「具象絵画ビエンナーレ」、三重県立美術館、1985年5月18日～6月16日。
- 07 「モローと象徴主義の画家たち」、三重県立美術館、1985年1月4日～2月11日。
- 08 「関根正二とその時代—大正洋画の青春—」、三重県立美術館、1986年9月6日～10月5日。
- 09 「生誕100年記念 アルプ展」、三重県立美術館、1986年6月28日～7月27日。
- 10 「パリを描いた日本人画家」、三重県立美術館、1986年3月29日～5月5日。
- 11 “PARIS VU PAR LES ARTISTES JAPONAIS”, Paris, Musée Carnavalet (パリ・カルナヴァレ中世博物館)、1985年11月3日～1986年2月2日。
- 12 「開館3周年記念 ルーベンス展」、三重県立美術館、1985年11月9日～12月22日。
- 13 「開館5周年記念 ヨーロッパ絵画の500年プラハ国立美術館コレクション」、三重県立美術館、1987年8月29日～10月4日。
- 14 「人と色彩の交感—足代義郎展」、三重県立美術館、1987年3月28日～4月12日。
- 15 「現代に生きている16世紀の寓話—巨匠ピーテル・ブリューゲル全版画展」、三重県立美術館、1989年4月15日～5月14日。
- 16 「三重県・サンパウロ州姉妹提携15周年記念 ドガ展」、三重県立美術館、1988年11月26日～12月25日。
- 17 「100の絵画・スペイン20世紀の美術—ピカソから現在まで」、三重県立美術館、1991年10月5日～11月4日。
- 18 「森芳雄展」、三重県立美術館、1991年3月9日～3月31日。
- 19 「開館10周年記念 シャガール展」、三重県立美術館、1993年1月5日～2月14日。
- 20 「大坂画壇—江戸から昭和に至る絵画—」、関西大学図書館、1993年5月4日～7月30日。
- 21 「西田家寄贈 近世・近代の絵画」、関西大学図書館、1994年4月4日～5月16日。

- 22 「アート・フロンティア'96現代日本の視覚展」、三重県総合文化センター、1996年1月9日～1月15日。
- 23 「中井藍江とその周辺の画家たち」、関西大学図書館、1996年4月1日～5月19日。
- 24 「元永定正展」、三重県総合文化センター、1997年3月。
- 25 「大坂の書と画と本—関西大学図書館蔵」、関西大学図書館、1997年5月30日～6月11日、(監修：山本卓、中谷伸生)。
- 26 「笑いの奇才 耳鳥齋—近世大坂の戯画—」、伊丹市立美術館、2005年4月9日～5月22日、(監修：中谷伸生)。
- 27 「関西大学創立120周年記念 大坂画壇の絵画—文人画・戯画から長崎派・写生画へ—」、関西大学図書館、2006年10月15日～12月16日。
- 28 「大正癸丑蘭亭会百周年(おおさか)記念—近代日本における翰墨の盛典—」、関西大学博物館、2013年4月1日～5月19日。(実行委員長：陶徳民、副実行委員長：中谷伸生)。
- 29 「山本竟山の書と学問—湖南・雨山・鉄斎・南岳との文人交流ネットワーク—」、関西大学博物館、2018年4月1日～5月20日。(実行委員長：陶徳民、副実行委員長：中谷伸生)。

【科学研究費他外部獲得資金】

- 01 鹿島美術財団研究助成、「近代日本画の下絵の研究—宇田萩邨を手がかりに」(代表：中谷伸生)、1989年度。
- 02 科学研究費補助金 基盤研究(B)「江戸時代における大坂画壇の研究」(代表：山岡泰造)、研究分担者、1998年度～1999年度。
- 03 科学研究費補助金 基盤研究(B)「インド共和国マヘート(舎衛城)遺跡の研究—王宮地区の調査—」(代表：高橋隆博)、研究分担者、2002年度～2004年度。
- 04 科学研究費補助金 基盤研究(B)「インド石窟寺院の美術史的研究—西インド地域を中心として—」(代表：山岡泰造)、研究分担者、2003年度。
- 05 科学研究費補助金 基盤研究(B)「インド石窟寺院の美術史的研究—西インド地域を中心として—」(代表：中谷伸生)、2004年度～2005年度。
- 06 文部科学省学術フロンティア推進拠点事業「東アジアにおける文化情報の発信と受容」(代表：松浦章)、研究分担者、2005年度～2009年度。
- 07 科学研究費補助金 基盤研究(B)「西インド石窟寺院の総合的研究—仏教石窟変遷過程の構造的理解に向けて—」(代表：米田文孝)、研究分担者、2006年度～2008年度。
- 08 科学研究費補助金 基盤研究(C)「耳鳥齋と大坂の戯画」(代表：中谷伸生)、2006年度～2007年度。
- 09 メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金「東アジアの文人世界と野呂介石」(代表：中谷伸生)、2007年4月～2008年3月。
- 10 科学研究費補助金 基盤研究(B)「文化遺産としての大衆的イメージ—近代日本における視覚文化の美学美術史学的研究—」(代表：同志社大学・金田千秋)、研究分担者、2008年度～2011年度。
- 11 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「東アジア文化資料のアーカイヴズ構築と活用の

- 研究拠点形成」(代表：松浦章)、研究分担者、2011年度～2015年度。
- 12 関西大学教育研究緊急支援経費「書画をめぐる日中文化交流——一九一三年蘭亭会百周年記念企画——」(代表：陶徳民、副代表：中谷伸生)、2012年8月1日～2018年6月30日。
 - 13 科学研究費補助金 基盤研究 (C)「耳鳥齋の戯画と近代漫画の比較研究——アニメーションの源流としての江戸時代の戯画——」(代表：中谷伸生)、2012年度～2014年度。
 - 14 関西大学教育研究緊急支援経費「山本竟山の書と学問——湖南・雨山・鉄斎との文人交流ネットワーク——」(代表：陶徳民、副代表：中谷伸生)、2017年8月1日～2018年6月30日。
 - 15 文部科学省私立大学研究ブランディング事業「オープン・プラットフォームが開く関大の東アジア文化研究」(代表：内田慶市)、研究分担者、2017年度～2021年度。
 - 16 科学研究費補助金 基盤研究 (B)「木村兼葭堂“知”のネットワークの解析」(代表：橋爪節也)、研究分担者、2018年度～2020年度。
 - 17 科学研究費補助金 基盤研究 (B)「泊園書院を中心とする日本漢学の研究とアーカイブ構築」(代表：吾妻重二)、研究分担者、2018年度～2021年度。
 - 18 科学研究費補助金 基盤研究 (C)「耳鳥齋の戯画と日本戯画史の構築」(代表：中谷伸生)、2018年度～2020年度。